

# 図表目次

## <第Ⅰ章>

- ☒ I-1 随意運動伝導路の走行 3
- ☒ I-2 脊髄神経知覚性線維（Ia線維，Ib線維）と下位運動ニューロン 4
- ☒ I-3 反射弓と錐体路 4
- ☒ I-4 膝蓋腱反射の反射弓 5
- ☒ I-5 対麻痺と四肢麻痺 8
- ☒ I-6 腱反射の亢進 9
- ☒ I-7 大脳の横断面と内包周囲の横断面 11
- ☒ I-8 錐体路と側枝 12
- ☒ I-9 延髄の横断面 13
- ☒ I-10 脊髄神経支配の筋 14
- ☒ I-11 脳神経支配の筋 15
- ☒ I-12 中枢性顔面神経麻痺と末梢性顔面神経麻痺 15
- ☒ I-13 顔面神経核に至る錐体路（皮質延髄路） 16
- ☒ I-14 嚙下反射 17
- ☒ I-15 カーテン徴候 17
- ☒ I-16 喉頭の構造 17
- ☒ I-17 喉頭鏡所見 18
- ☒ I-18 舌下神経麻痺 18
- ☒ I-19 交代性片麻痺が生じるメカニズム 19
- ☒ I-20 Weber 症候群のメカニズム 21
- ☒ I-21 延髄の横断面 21
- ☒ I-22 前脊髄動脈症候群の運動症状 22
- ☒ I-23 片側性前脊髄動脈症候群の運動症状 23
- ☒ I-24 Brown-Séquard 症候群の運動症状 24
- ☒ I-25 中枢神経の有髄線維 25
- ☒ I-26 末梢神経の有髄線維 25
- ☒ I-27 髄鞘の形成 25
- ☒ I-28 脊髄神経運動性線維の髄鞘 27
- ☒ I-29 脊髄と脊髄神経の神経根 27
- ☒ I-30 錐体路中枢の同心円状の配列 29
- ☒ I-31 錐体路（皮質脊髄路）の脊髄灰白質内の走行 30
- ☒ I-32 錐体路の前角への連絡 30
- ☒ I-33 錐体路（外側皮質脊髄路）の部位差と左右差 31
- ☒ I-34 前皮質脊髄路の走行 31
- ☒ I-35 内包における錐体路の体部位局在性 32

- ☒ I-36 脊髄における錐体路 32
- ☒ I-37 脊髄の前角における体部位局在性 33
- ☒ I-38 補足運動野における体部位局在性 34
- ☒ I-39 随意運動発現のメカニズム 36

- 表 I-1 錐体路徴候と下位運動ニューロン症状 6
- 表 I-2 錐体路中枢の障害と運動前野の障害の比較 12
- 表 I-3 脳神経支配の筋 15
- 表 I-4 中枢性顔面神経麻痺と末梢性顔面神経麻痺の鑑別 16
- 表 I-5 交代性麻痺 20
- 表 I-6 神経線維の種類 25
- 表 I-7 多発性硬化症，Guillain-Barré 症候群，筋萎縮性側索硬化症の症状 26

## <第Ⅱ章>

- ☒ II-1 表在覚・非識別型触覚伝導路 41
- ☒ II-2 偽単極神経細胞 42
- ☒ II-3 髄外腫瘍における表在覚麻痺 43
- ☒ II-4 髄内腫瘍における表在覚麻痺 44
- ☒ II-5 脊髄損傷における障害 45
- ☒ II-6 意識型深部覚・識別型触覚伝導路 46
- ☒ II-7 後索と後索核 47
- ☒ II-8 知覚解離が生じるメカニズム 48
- ☒ II-9 前脊髄動脈症候群の症状 49
- ☒ II-10 脊髄の動脈(1) 50
- ☒ II-11 脊髄の動脈(2) 50
- ☒ II-12 片側性前脊髄動脈症候群の症状 51
- ☒ II-13 頸部以下の体幹に両側性の表在覚麻痺を来した脊髄空洞症例のMRI 51
- ☒ II-14 脊髄空洞症の症状 52
- ☒ II-15 Virchow-Robin 腔 53
- ☒ II-16 Brown-Séquard 症候群の症状 53
- ☒ II-17 Brown-Séquard 症候群と診断された椎間板ヘルニア症例のMRI 54
- ☒ II-18 Dejerine 症候群の症状 54
- ☒ II-19 胃幽門側垂全摘術あるいは胃全摘術後の再建術 57
- ☒ II-20 Friedreich 失調症における足の骨格変形（凹足） 58

- 図 II-21 三叉神経とその知覚核 60
- 図 II-22 顔面皮膚の三叉神経支配域と三叉神経脊髄路核の対応 61
- 図 II-23 顔面皮膚の三叉神経支配域と手背皮膚の脊髄神経支配域の対比 62
- 図 II-24 角膜反射の反射弓 63
- 図 II-25 海綿静脈洞 64
- 図 II-26 内頭蓋底の中心部の模式図 64
- 図 II-27 Wallenberg 症候群の典型例 66
- 図 II-28 反対側顔面からの表在覚伝導路（三叉神経視床路）が上行する部位 67
- 図 II-29 早川の分類 68
- 図 II-30 Currier らの分類 69
- 図 II-31 Matsumoto らの分類 70
- 図 II-32 Matsumoto らの分類による表在覚麻痺発現部位の相違 71
- 図 II-33 左 Wallenberg 症候群典型例の MRI 72
- 図 II-34 生後と胎生期の Willis の動脈輪 72

- 表 II-1 末梢神経線維の分類 56
- 表 II-2 知覚解離を来す主要疾患 56
- 表 II-3 脊髄障害部位と症状 67

### <第III章>

- 図 III-1 小脳の区分(1) 76
  - 図 III-2 小脳の区分(2) 77
  - 図 III-3 小脳へ入力する伝導路 77
  - 図 III-4 小脳から出力する伝導路 77
  - 図 III-5 小脳脚 78
  - 図 III-6 延髄の横断面 78
  - 図 III-7 プルキンエ細胞 79
  - 図 III-8 手の回内・回外検査 81
  - 図 III-9 橋小脳・大脳皮質・前角の連絡 81
  - 図 III-10 皮質橋小脳路 82
  - 図 III-11 非意識型深部覚による錐体外路系の制御 83
  - 図 III-12 下半身からの非意識型深部覚伝導路 84
  - 図 III-13 上半身からの非意識型深部覚伝導路 85
  - 図 III-14 腱反射と相反神経支配 86
  - 図 III-15 運動麻痺と運動失調 87
- 表 III-1 小脳の形態的区分, 系統発生的区分, 機能的区分の対応 76
  - 表 III-2 小脳脚を通る主な伝導路 78
  - 表 III-3 運動失調の鑑別 80
  - 表 III-4 脊髄小脳変性症 88

### <第IV章>

- 図 IV-1 内耳の位置 92
- 図 IV-2 内耳の構造 92
- 図 IV-3 前庭神経 94
- 図 IV-4 鎖骨下動脈盗血症候群における血流 95
- 図 IV-5 平衡斑および膨大部稜の有毛細胞 96
- 図 IV-6 平衡斑の位置と平衡毛の配列 97
- 図 IV-7 膨大部稜と平衡毛の配列 97
- 図 IV-8 平衡斑の機能 98
- 図 IV-9 外側半規管の機能 100
- 図 IV-10 外側半規管の位置 100
- 図 IV-11 前および後半規管の機能 101
- 図 IV-12 内頭蓋底における前および後半規管の位置 101
- 図 IV-13 眼球の水平断と眼底所見 102
- 図 IV-14 マリオット盲点の観察法 102
- 図 IV-15 中脳の水平断とトルコ鞍の周辺部 103
- 図 IV-16 脳幹とトルコ鞍の周辺部 104
- 図 IV-17 外眼筋の単独作用 105
- 図 IV-18 共同注視運動 106
- 図 IV-19 側方注視のメカニズムと MLF 症候群 107
- 図 IV-20 左 MLF 症候群の症例 108
- 図 IV-21 外眼筋の走行 108
- 図 IV-22 半規管の位置する面と外眼筋の作用方向 109
- 図 IV-23 前庭動眼反射(1): 頭部の回旋による眼球の偏在 110
- 図 IV-24 前庭動眼反射と追跡眼球運動 111
- 図 IV-25 前庭動眼反射(2): 頭部の前屈による眼球の偏位 112
- 図 IV-26 前庭動眼反射(3): 頭部の後屈による眼球の偏位 113
- 図 IV-27 随意的な眼球運動と前庭動眼反射のルート 114
- 図 IV-28 眼球反対回旋 114
- 図 IV-29 眼振の急速相 117
- 図 IV-30 視運動性眼振の緩徐相 118
- 図 IV-31 caloric test を行う時の頭位 119
- 図 IV-32 caloric test 冷水刺激 120
- 図 IV-33 caloric test 冷水刺激による眼振の緩徐相 121
- 図 IV-34 聴神経腫瘍の MRI 122
- 図 IV-35 自発性眼振の緩徐相 125
- 図 IV-36 右の前半規管のみが障害されたと仮定した場合の眼振 126

- 図IV-37 右の後半規管のみが障害されたと仮定した場合の眼振 126
- 図IV-38 平衡覚伝導路のまとめ 129
- 表IV-1 骨迷路と膜迷路の対応 93
- 表IV-2 主な末梢前庭性疾患の鑑別 123
- 表IV-3 前庭神経核からの平衡覚情報の出力 130
- 表IV-4 平衡覚伝導路と関連の深い伝導路 130

## <第V章>

- 図V-1 小脳と大脳基底核を中心とする錐体外路系 134
- 図V-2 非意識型深部覚による錐体外路系の制御 136
- 図V-3 小脳内部の神経回路 137
- 図V-4 大脳基底核の構成要素(1)：概要 139
- 図V-5 大脳基底核の構成要素(2)：大脳の水平断 139
- 図V-6 大脳基底核の構成要素(3)：大脳の前額断 139
- 図V-7 大脳基底核の構成要素(4)：脳の外表面への投影 139
- 図V-8 大脳基底核の構成要素(5)：中脳の水平断 140
- 図V-9 運動系ループと基底核-脳幹系 141
- 図V-10 運動系ループ 141
- 図V-11 運動系ループと黒質線条体線維 142
- 図V-12 無動のメカニズム 144
- 図V-13 仮面様顔貌 145
- 図V-14 異常歩行のメカニズム 146
- 図V-15 矢状断での黒質と青斑核 147
- 図V-16 青斑核の機能 147
- 図V-17 前傾姿勢 148
- 図V-18 Huntington 舞踏病のメカニズム 149
- 図V-19 Huntington 病の大脳の前額断 150
- 図V-20 バリズムのメカニズム 150
- 図V-21 ハイパー直接路 151
- 図V-22 左中脳内側部梗塞のMRI 153
- 図V-23 赤核周辺の構造(1)：Guillain-Mollaret 三角 153
- 図V-24 赤核周辺の構造(2)：小脳赤核路 154
- 図V-25 皮質赤核路と赤核脊髓路 155
- 図V-26 皮質前庭路と前庭脊髓路 156
- 図V-27 Wernicke-Mann 肢位および除脳硬直肢位発現のメカニズム 156
- 図V-28 Wernicke-Mann 肢位 157

- 図V-29 除皮質硬直に特有な肢位 157
- 図V-30 除脳硬直に特有な肢位 157
- 図V-31 Lewy 小体病 159
- 図V-32 多系統萎縮症 159
- 図V-33 中脳の横断面 160
- 図V-34 ドーパミンとアセチルコリン 161
- 図V-35 毛細血管と血管脳関門 162
- 図V-36 サッケードのメカニズム 163
- 図V-37 サッケードと大脳基底核 164
- 図V-38 サッケードとPPRF 164
- 図V-39 腹側被蓋野と前頭前野 166

- 表V-1 パーキンソニズム 144
- 表V-2 Parkinson 病と小脳機能障害の症状の比較 145
- 表V-3 Parkinson 病と Huntington 舞踏病の対比 150
- 表V-4 血液脳関門 161
- 表V-5 皮質性認知症と皮質下性認知症 166

## <第VI章>

- 図VI-1 大脳辺縁系の構成要素(1)：脳の正中断 172
- 図VI-2 大脳辺縁系の構成要素(2)：大脳の内側面 172
- 図VI-3 Papez の回路 173
- 図VI-4 記憶系 173
- 図VI-5 記憶形成のメカニズム 174
- 図VI-6 Alzheimer 型認知症の大脳 177
- 図VI-7 Pick 病の大脳 181
- 図VI-8 Yakovlev の回路 182
- 図VI-9 大脳辺縁系を巡る神経回路(1)：海馬と扁桃体 183
- 図VI-10 側坐核と大脳基底核：大脳半球内側面への投影 184
- 図VI-11 大脳辺縁系を巡る神経回路(2)：大脳辺縁系と錐体外路系 185

- 表VI-1 初老期認知症性疾患の鑑別 183

## <第VII章>

- 図VII-1 両側の視床 190
- 図VII-2 視床と中枢神経各部の連絡 191
- 図VII-3 視床の動脈支配 193
- 図VII-4 視床と小脳大脳連関・錐体路の関係 197

図VII-5 視床と内包 198

表VII-1 視床の動脈支配 191

表VII-2 視床症候群の主要症状 195

表VII-3 視床の動脈と症状の対比 195

## <第Ⅷ章>

図VIII-1 自律神経系の概観 202

図VIII-2 交感神経系の走行(1)：幹神経節から標的器官に至る経路 205

図VIII-3 交感神経系の走行(2)：交感神経幹の節間枝 206

図VIII-4 心臓および心膜の内臓求心性線維 207

図VIII-5 dermatome と Head 帯 208

図VIII-6 瞳孔の調節 210

図VIII-7 水晶体の調節 210

図VIII-8 眼の交感神経系と副交感神経系 211

図VIII-9 Horner 症候群の部位診断 213

図VIII-10 対光反射(1)：直接対光反射 218

図VIII-11 対光反射(2)：間接対光反射 219

図VIII-12 視神経障害における対光反射(1)：障害側眼の光刺激 220

図VIII-13 視神経障害における対光反射(2)：健側眼の光刺激 220

図VIII-14 動眼神経麻痺における対光反射(1)：障害側眼の光刺激 221

図VIII-15 動眼神経麻痺における対光反射(2)：健側眼の光刺激 221

図VIII-16 テント切痕ヘルニアのCT 222

図VIII-17 動眼神経と栄養血管 222

図VIII-18 対光反射と近見反応 224

図VIII-19 排尿の神経機構(1)：膀胱の神経支配 228

図VIII-20 排尿の神経機構(2)：排尿反射 230

図VIII-21 神経因性膀胱の障害部位 234

図VIII-22 自律性膀胱の膀胱造影 236

図VIII-23 排便の神経機構(1)：大腸の神経支配 238

図VIII-24 排便の神経機構(2)：排便反射 239

図VIII-25 循環調節の神経機構 241

図VIII-26 動脈圧受容器反射 242

図VIII-27 呼吸調節の神経機構 244

表VIII-1 自律神経系の機能 204

表VIII-2 発汗支配の髄節レベル 206

表VIII-3 眼瞼運動に関与する筋 210

表VIII-4 Horner 症候群と動眼神経麻痺の鑑別 214

表VIII-5 Horner 症候群の部位診断 217

表VIII-6 Argyll Robertson 瞳孔と Adie 瞳孔の鑑別 225

表VIII-7 神経因性膀胱の分類と鑑別 234

表VIII-8 胸郭の運動(呼吸運動)に関与する筋 245

## <第Ⅸ章>

図IX-1 脊髄神経の神経根(前根, 後根)と前枝, 後枝 250

図IX-2 神経筋接合部 252

図IX-3 Charcot-Marie-Tooth 病の逆シャンパンボトル型およびコウノトリ脚型の筋萎縮 257

図IX-4 重症筋無力症と Lambert-Eaton 症候群のメカニズム 259

図IX-5 Duchenne 型筋ジストロフィー症の立位姿勢 260

図IX-6 根性支配(dermatome)と末梢性支配 261

図IX-7 根性支配(myotome)と末梢性支配 261

図IX-8 神経根圧迫性病変の病態 266

図IX-9 Luschka 関節 267

図IX-10 椎間板ヘルニアの病態 268

図IX-11 腰部脊柱管狭窄症の分類 270

図IX-12 腰部脊柱管狭窄症の病態 271

図IX-13 神経根症状誘発テスト 274

図IX-14 肋間神経の皮膚支配 275

図IX-15 Beevor 徴候 276

図IX-16 大胸筋の作用 278

図IX-17 腕神経叢 279

図IX-18 斜角筋隙と肋鎖間隙 280

図IX-19 肋鎖間隙と小胸筋下間隙 280

図IX-20 過外転症候群のメカニズム 281

図IX-21 橈骨動脈の拍動減弱誘発テスト 282

図IX-22 腕神経叢と上肢の交感神経 283

図IX-23 引き抜き損傷と節後型損傷 284

図IX-24 オートバイ転倒事故による引き抜き損傷 285

図IX-25 神経根の被膜 285

図IX-26 胎児循環 287

図IX-27 腕神経叢損傷と Horner 症候群 289

図IX-28 腕神経叢損傷と上肢の交感神経症状 290

図IX-29 肩甲上神経の走行 292

図IX-30 上腕内転時の肩甲上神経 293

図IX-31 オーバーヘッド動作(投球動作) 293

図IX-32 腋窩神経の走行 294

図IX-33 上腕外転時の四辺形間隙 295

図IX-34 筋皮神経の走行 295

図IX-35 腋窩神経, 筋皮神経の皮膚支配 296

- ☒ IX-36 副神経の走行 296
- ☒ IX-37 上肢における正中神経・尺骨神経・橈骨神経の走行 299
- ☒ IX-38 上肢における正中神経・尺骨神経・橈骨神経の皮膚支配 299
- ☒ IX-39 正中神経・橈骨神経の走行 300
- ☒ IX-40 屈筋支帯 301
- ☒ IX-41 手根管と Guyon 管(1) 301
- ☒ IX-42 手根管と Guyon 管(2) 302
- ☒ IX-43 手根管 MRI 302
- ☒ IX-44 正中神経麻痺の部位診断 303
- ☒ IX-45 猿手, 祝祷肢位, tear drop outline のメカニズム 304
- ☒ IX-46 祝祷肢位 304
- ☒ IX-47 猿手 304
- ☒ IX-48 上腕骨顆上骨折 304
- ☒ IX-49 perfect O テスト 306
- ☒ IX-50 Phalen テスト 306
- ☒ IX-51 乳児を抱く際の肢位 307
- ☒ IX-52 Colles 骨折 307
- ☒ IX-53 尺骨神経の走行 307
- ☒ IX-54 手掌部における尺骨神経の分枝形態と浅枝の絞扼 308
- ☒ IX-55 薬指と小指の鉤爪指変形のメカニズム 310
- ☒ IX-56 鉤爪指変形 310
- ☒ IX-57 Froment 徴候 310
- ☒ IX-58 尺骨神経麻痺の部位診断 311
- ☒ IX-59 上腕骨外顆骨折 311
- ☒ IX-60 Guyon 管症候群の絞扼部位による分類 311
- ☒ IX-61 橈骨神経の走行(1) 314
- ☒ IX-62 橈骨神経の走行(2) 314
- ☒ IX-63 橈骨神経の高位型麻痺と低位型麻痺 315
- ☒ IX-64 橈骨神経麻痺の部位診断 316
- ☒ IX-65 下垂手 316
- ☒ IX-66 握り動作における連合運動 316
- ☒ IX-67 Monteggia 骨折 317
- ☒ IX-68 下垂指 317
- ☒ IX-69 腰神経叢と仙骨神経叢 318
- ☒ IX-70 大腿神経の走行 319
- ☒ IX-71 鼠径靭帯と大腿三角 320
- ☒ IX-72 鼠径靭帯深層の筋裂孔と血管裂孔 320
- ☒ IX-73 大腿三角 321
- ☒ IX-74 大腿神経・伏在神経・外側大腿皮神経・閉鎖神経の皮膚支配 321
- ☒ IX-75 外側大腿皮神経の走行 323
- ☒ IX-76 閉鎖神経の走行 325
- ☒ IX-77 大腿神経と閉鎖神経の走行 325
- ☒ IX-78 大腿の筋の神経支配 325
- ☒ IX-79 閉鎖孔ヘルニア 326
- ☒ IX-80 殿部深層の構造 327
- ☒ IX-81 坐骨神経の走行(1) 328
- ☒ IX-82 梨状筋下孔(1) 328
- ☒ IX-83 坐骨神経の走行(2) 329
- ☒ IX-84 梨状筋下孔(2) 329
- ☒ IX-85 大腿骨頸部骨折 330
- ☒ IX-86 梨状筋と坐骨神経の位置関係の多様性 331
- ☒ IX-87 坐骨神経(総腓骨神経成分と脛骨神経成分) 333
- ☒ IX-88 反張膝 334
- ☒ IX-89 ダッシュボード損傷 334
- ☒ IX-90 Roser-Nélaton 線 335
- ☒ IX-91 陰茎海綿体の膠原細線維の三次元構築 336
- ☒ IX-92 陰茎海綿体(マウス)の膠原細線維の三次元構築(走査型電子顕微鏡像) 337
- ☒ IX-93 殿部深層の構造 339
- ☒ IX-94 殿部筋肉内注射部位 339
- ☒ IX-95 中・小殿筋の作用(1) 340
- ☒ IX-96 中・小殿筋の作用(2) 340
- ☒ IX-97 股関節外転位拘縮と内転位拘縮 340
- ☒ IX-98 Trendelenburg 徴候 341
- ☒ IX-99 Duchenne 徴候 341
- ☒ IX-100 股関節の形態 343
- ☒ IX-101 内反股 344
- ☒ IX-102 筋緊張と先天性股関節脱臼 345
- ☒ IX-103 先天性股関節脱臼の病態 345
- ☒ IX-104 両側性の先天性股関節脱臼 346
- ☒ IX-105 Perthes 病の発症メカニズム 346
- ☒ IX-106 Perthes 病における大腿骨頭の変形 347
- ☒ IX-107 総腓骨神経の走行 348
- ☒ IX-108 総腓骨神経および脛骨神経の走行(1) 348
- ☒ IX-109 総腓骨神経および脛骨神経の走行(2) 349
- ☒ IX-110 梨状筋症候群と総腓骨神経・脛骨神経麻痺との鑑別 350
- ☒ IX-111 農作業 351
- ☒ IX-112 fabella の解剖学的位置関係 351
- ☒ IX-113 浅腓骨神経, 深腓骨神経, 外側腓腹皮神経, 脛骨神経, 腓腹神経の皮膚支配 353
- ☒ IX-114 内反足 353
- ☒ IX-115 深腓骨神経の走行 354
- ☒ IX-116 尖足(下垂足) 354
- ☒ IX-117 ハイヒールの靴紐による総腓骨神経の圧迫 354
- ☒ IX-118 足根管(1) 356
- ☒ IX-119 足根管(2) 357
- ☒ IX-120 鉤足(踵足) 357
- ☒ IX-121 外反足 358

- 表IX-1 ニューロパチーの分類と原因 253  
 表IX-2 特徴的な症状を呈するニューロパチー 254  
 表IX-3 運動症状の障害部位による鑑別 254  
 表IX-4 ニューロパチーに合併する中枢神経系疾患 255  
 表IX-5 Charcot-Marie-Tooth 病と Friedreich 失調症の鑑別 257  
 表IX-6 重症筋無力症と Lambert-Eaton 症候群の鑑別 258  
 表IX-7 上肢筋の末梢性支配と根性支配 262  
 表IX-8 上肢の根性支配 263  
 表IX-9 下肢筋の末梢性支配と根性支配 264  
 表IX-10 下肢の根性支配 265  
 表IX-11 腰椎椎間板ヘルニアの高位診断 269  
 表IX-12 間欠性跛行の鑑別 272  
 表IX-13 浅胸筋群と深胸筋群, 浅背筋群と深背筋群の起始, 停止, 神経支配, 作用の比較 277  
 表IX-14 胸壁, 腹壁, 背側壁の筋の神経支配と作用 278  
 表IX-15 引き抜き損傷と節後型損傷の鑑別 286  
 表IX-16 進行性筋ジストロフィー症の鑑別 298  
 表IX-17 手の内在筋と外来筋 309  
 表IX-18 下肢筋の神経支配 319  
 表IX-19 下肢の主な二関節筋 322  
 表IX-20 大腿の運動(股関節の運動)と靭帯 335  
 表IX-21 自己免疫機序が関与する神経筋疾患 342  
 表IX-22 足の運動を司る筋 358

---

## Coffee Break 目次

---

- ナマズと地震 96  
 動体視力 104  
 寝耳に水 116  
 鉄道眼振 127  
 Parkinson と恐竜 143  
 ‘赤’—医学と民俗学の接点— 152  
 Alzheimer を巡る人物絵巻 178  
 脳と能 184  
 視床と唐津焼 192  
 Monet の白内障 216  
 Utrillo と遠近法 227  
 小便小僧 Julien 君 236  
 印象派時代の臨床神経学 256  
 僧帽筋の名の由来 292  
 生きた公式 303